

Title	Compound Heterozygous Mutations of Cytochrome P450 Oxidoreductase Gene (POR) in Two Patients With Antley-Bixler Syndrome
Author(s)	安達, 昌功
Citation	大阪大学, 2011, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/58190
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

〔背景〕 Antley-Bixler 症候群 (ABS) は、頭蓋骨早期癒合や橈骨-上腕骨癒合等の骨格異常、後鼻腔閉鎖、顔貌異常等を主徴とする先天性奇形症候群である。ABS における繊維芽細胞成長因子受容体 2 (FGFR2) 遺伝子変異が過去に報告されたが、本症には遺伝的異質性が存在することが想定されている。ABS の少なくとも一部には、女兒の陰唇癒合や男児の小陰茎・停留精巣などを伴う事が知られており、我々は以前に、ABS の 3 名において、特異なステロイド合成障害 (17 α 水酸化酵素、17,20-lyase、21水酸化酵素の活性低下所見) が存在することを報告した。また、ABS においては、コレステロール生合成に重要な lanosterol 14 α -demethylase 活性の低下も報告されている。これらの酵素は、いずれも cytochrome P450 ファミリーに属するミクロソームに局在する酵素であり、電子供与体として cytochrome P450 oxidoreductase (POR 遺伝子にコードされる) を必要とすることが判明している。

〔目的〕 上記に示すステロイド合成障害所見を有する 2 名の ABS 患者において、POR 遺伝子変異を検索し、本症が、POR 遺伝子変異に起因するという仮説を検討した。

〔方法ならびに成績〕

症例 1) 核型 46,XY。頭蓋骨早期癒合に対する外科治療歴を有する。両側の上腕骨-橈骨癒合の他、多発性の関節拘縮を認める。14 歳時の内分泌的評価にて、17 α 水酸化酵素、17,20-lyase、21水酸化酵素の活性低下所見を認め、以後ステロイド治療を受けている。外性器異常はなく、性発育も正常であった。

症例 2) 核型 46,XX。生下時に両側の橈骨-上腕骨癒合と、陰核肥大・小陰唇癒合を指摘された。尿ステロイド分析により、症例 1 と同様の内分泌異常を認めた。11 歳の時点で二次性徴は認めなかった。

上記 2 症例およびその両親から白血球を採取し、DNA を抽出後、PCR-direct sequence 法にて POR 遺伝子を解析した。プライマー配列は、ヒトゲノム情報に基づき、全エクソンと、エクソン-イントロン領域を増幅できるように設計した。症例 1 は一塩基挿入 (1329insC) とミスセンス変異 (R454H) の複合ヘテロ変異であり、症例 2 は、1698insC と R454H との複合ヘテロ変異であることが判明した。各々の一塩基挿入変異は、早期に終止コドン进行することで、不安定な mRNA を生じることが予想された。実際に、芽球化リンパ球を用いた RT-PCR による検討では、これらミスセンス変異を有するアリの発現は認められず、転写後直ちに消失することが想定された。一方、R454 は、FAD 結合ドメインに存在し、また種を超えて保存されている部位であるため、R454H 変異は病因変異であると想定した。

FGFR2 遺伝子の検討では、上記 2 症例に変異は認めなかった。

〔総括〕 ABS の遺伝的異質性が証明された。すなわち、今回の検討で、ステロイド合成異常を伴う ABS は、POR 遺伝子変異により引き起こされ、常染色体劣性遺伝型式をとることが明らかとなった。一方、FGFR2 変異による ABS は、ステロイド合成異常を欠き、常染色体優性遺伝型式を示すと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本論文は、先天性奇形症候群の一つである Antley-Bixler 症候群 (ABS) が、チトクローム P450 オキシドレダクターゼ (POR) 遺伝子異常により惹起されることを見出したものである。

ABS の一部は繊維芽細胞成長因子受容体 2 (FGFR2) 遺伝子変異が原因であると判明していたが、ABS 患者が呈する特異なステロイド合成障害 (17 α 水酸化酵素と 21水酸化酵素の活性低下) が説明できず、遺伝的異質性が想定されていた。ABS 患者で lanosterol 14 α -demethylase 活性の低下を認めたという報告を受け、申請者らは、上記の 3 種の酵素の電子供与体である POR の機能低下が原因と想定した。今回、2 名の ABS 患者に、POR 遺伝子の複合ヘテロ変異が同定された。

本検討にて、ステロイド合成障害を伴う ABS は POR 遺伝子異常症であり、ステロイド合成異常を欠く ABS は FGFR2 変異

【143】

氏名	あ だ ます のり 安 達 昌 功
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 2 4 8 0 4 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 23 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 名	Compound Heterozygous Mutations of Cytochrome P450 Oxidoreductase Gene (<i>POR</i>) in Two Patients With Antley-Bixler Syndrome (2 名の Antley-Bixler 症候群患者に於けるチトクローム P450 オキシドレダクターゼ (<i>POR</i>) 遺伝子の複合ヘテロ変異)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 大 藁 恵 一 (副査) 教 授 吉 川 秀 樹 教 授 下 村 伊 一 郎

による事が示された。現在、前者はABS-1、後者はABS-2と呼称され、申請者らの仮説が世界的に認知されている。

以上の内容は、学位の授与に値するものと認める。